

CASA新聞

発行 株式会社カーザミカワ
 岡崎本社 ☎0564-24-2511
 岡崎市吹矢町88番地
 豊田営業所 ☎0565-28-3891
 豊田市豊栄町6丁目1番地

木材自給率は42%台に上昇

2023年木材需給

2023年の木材総需要量は、7985万3000立方メートル(前年比6.1%減)で3年ぶりに8000万立方メートルを割った。燃料材は増加したものの、用材(製材、合板、パルプ・チップ等)が2桁で減少したことが響いた。用材は内外産で前年割れだが、輸入材の落ち込みが目立ったことで木材自給率は42.9%(同2.2%増)に向上し1972年以来51年ぶりの水準となった。林野庁が9月27日に公表した木材需給表は、木材統計や貿易統計など

を基に木材需給を丸太換算して算出している。総需要量に対する国内生産が3425万9000立方メートル(1%減)で、輸入が4559万4000立方メートル(同9.7%減)となった。昨年の新設住宅着工が戸数と床面積の両方で減り、木材消費量が縮減したことが影響した。とりわけ輸入材は、建築用等が1308万8000立方メートル(28.2%減)で大幅に落ち込んだ。実需減少のなか円安による仕入れコスト高で入荷量が抑制されたほか、長年にわたって日本の購買力が低下し、産地価格の調整もできなかった。主な用途別需給では、製材用需要量が2179万立方メートル(17%減)、合板用が747万4000立方メートル(同23.9%減)、パルプ・チップ用が2779万7000立方メートル(同5.9%減)でいずれも減少した。総需要量のうち輸出は339万5000立方メートル(同11.6%増)で増加。丸太が159万5000立方メートル(同20.5%増)、パルプ・チップ等が137万1000立方メートル(同14.5%増)となった。木材自給率は用材が38.6%(同2.8%増)で、総数で42.9%(同2.2%増)とさらに上昇した。2002年の最低(18.8%)から約24%増加し、1972年の42.7%以来の数値となっている。

国産合板商況 首都圏中心に再び下げ局面

国産合板は8月下旬に荷動きが低迷し、首都圏を中心に同月末から再び下げ局面に転じた。9月以降は極端な停滞感から脱した合板メーカーや流通業者もあるが、下げ相場が続く姿を強めている。9月の国産針葉樹構造用合板(12mm厚、3×6判)の中心価格は、首都圏では8月末と比べ20円前後安となった。新設住宅着工が依然低位で推移するなか、プレカット工場間の価格競争が加速し、やや先行して下げが出た。ルト向けの製販が値上げの意向を強めていたが、荷動きが乏しく決算時期も控え、売り負

けられない現場からは営業単位で下げが出現。下げに抵抗のあった製販も追従せざるを得ず、徐々に市中価格が下押しされた。しかし、9月時点で首都圏ではプレカット工場向けで多少持ち直す動きがあるほか、関西でも8月を底に販売を伸ばす商社もあり、回復の兆しがみられる。例年なら11月ごろまで需要期となるため、期待感も生じている。流通在庫はおしなべて低水準だが、一部でトラック不足感があり、供給面に不安が漂う。9月の連休や米不足が背景にあるとの見方も出ている。

名古屋

針葉樹合板は、川下買い急ぐ様子がないまま秋を迎えている。市況低迷のなかで需要家は当用買いの姿勢を続けており、高いは低調だ。メーカーの生産調整により夏前半には在庫調整が多少進んだものの、盆明けには息切れし、出荷は予想よりも伸びなかった。住宅実需の不調により大口需要家のプレカット工場も稼働率が伸びず、資材仕入れの意欲は低い。映寿の台頭は厳しい様子で、さらに需給調整を進める必要があるようだ。価格は実需の回復感が薄いことから売りが優先され、基調は弱含みで推移している。構造用3×6判12mm厚の荷動きは鈍く、高いは厳しい。同24mm厚、28mm厚も弱含みで、安値が入り交じっている。

住宅建設にも個人情報保護の波?

工事看板表記巡り要望 住団連

住宅生産団体連合会(住団連)建築規制合理化委員会の国土交通省住宅局への要望提案書に、建築現場の工事看板が盛り込まれた。住団連の「建築関係法令の整備に関する要望」の一つで、建築現場の工事看板表記の配慮を求める内容だ。起案者は積水化学工業。現行の建築基準法では、建築主の氏名を表示するように定められているが、これに対して、苗字だけの表記にしろ、苗字だけという施工主の希望が増えている。特に、施工主が女性の場合が多いようだが、昨今の個人情報保護の流れから施工主名を記載することを嫌がるケースもあるという。

スもあるという。こうした現状を受けて、建築現場工事看板の表記に、建築主氏名の記載は求めないことを要望している。このほか、建設行政のDX化や働き方改革につながるような中央省庁による建築関連規定内容の一元化、強度区分8・8×12・9までの中ボルトの告示化による合理化、小規模建築物の増・改築における避難既定の規模制限の合理化など8項目が要望されている。

11月6日に設立5周年シンポ

参加者600人を募集 木造化・木質化推進あいち協

環境都市実現のための木造化・木質化推進あいち協議会は11月6日(水)、名古屋能楽堂で「設立5周年記念シンポジウム」(午後2時5分)を開催する。現在、参加者を募集している。2020年2月に愛知県木材組合連合会と愛知県建築士会を中心になって設立された同会は、木造・木質化を推進し、循環型・低炭素社会の実現に向けた活動を展開している。

当日は、ウッド・チェンジ協議会会長で東京海上日動火災保険相談役の隈修三氏が「日本の中高層ビルを木造建築に」と題した基調講演を行う。また、隈氏、古本愛知県副知事、長野麻子(株)モリアゲ代表による活字談「地域産業の活性化につながる木材利用」も行う。参加希望者は、代表者氏名などを明記して同会事務局までFAX(052・322・3376)かEメール(lovewood@hac.och.nj.jp)で申し込む。問い合わせは同会事務局(電話052・331・9386)まで。

表示説明	値下げ	横ばい	値上げ
市況状況	ラワン薄ベニヤ	ラワン構造用12mm	針葉樹12mm3×6

国産材原木は集荷遅れも

欧州材・米材製品ほか値下がり 名古屋地区

秋を迎えても名古屋地区内の木材需要は伸び悩んでおり、国産材原木の集荷遅れや減少を指摘する声が聞かれる。外材は欧州材Wウッド製品、米材輸入製品、国産材針葉樹合板が値下がりしている。国産材原木は、夏場の荒天の影響で原木集荷が例年より遅れており、材価低迷で出材意欲も減退。10月は地区内複数の原木市場で大型市が開かれるが、市況は不透明なままだ。国産材製品の価格は

底這い傾向にあるが、桧、杉製品ともに価格が比較的安定しているため、買いやすい環境にある。ただ、今後も市況が回復しない場合は再度の値下がりも危惧される。欧州材製品は、住宅需要低迷によるプレカッソ工場間の価格競争激化などを理由に間柱や管柱といったWウッド製品が値下がり。現状の売価に直接関係ない急激な円高も、値下げ圧力につながっている。Rウッド集成平角

は10月は値上げできない見通し。米材輸入製品は、国内挽き大手の一部値下げや為替の円高で売りづらい。KDタルキ、根太の流通在庫が増え、価格は競合する国産杉の影響で弱含みだ。国産針葉樹構造用合板は、市況低迷のなかで需要家が当用買いの姿勢を続けていて、需要動向次第では、在庫調整の局面を迎える可能性がある。

持ち家、分譲とも低水準続く

8月の新設住宅着工

8月の新設住宅着工戸数（国交省発表）は6万6819戸（前年同月比5・1％減）で、4カ月連続で前年同月を下回った。持ち家、貸家、分譲いずれも減少した。持ち家の着工は過去最低水準の23年累計を下回るペース。戸建て分譲も8月は単月の減少幅が大きくなり、24年下期に入っても着工は一向に増えてこない。新設床面積は503万9000平方メートル（同8・9％減）で4カ月連続の前年同月割れ。累計でも4024万8000平方メートル（前年同期比6・9％減）で床面積の縮小も顕著となっている。持ち家着工は1万9597戸（前年同月比6・6％減）で、33カ月連続の前年同月割れとなった。単月2万戸割れも12カ月

連続で、2万戸に届かない実績が常態化している。累計も14万1488戸（前年同期比6・9％減）となり、23年実績の約22万4000戸を下回るペースが続いている。戸建て分譲も9578戸（前年同月比17・4％減）で、22カ月連続で前年同月を下回った。17・4％減が、単月の減少幅として少なくとも過去12カ月で最大となった。また単月1万戸割れも2カ月連続だ。貸家は2万8939戸（同1・4％減）で2カ月ぶりの前年同月割れ。貸家は月ごとに着工動向が安定しない。累計では前年同期並みとなった。着工戸数減少とともに住戸の小型化も進んでいることから、床面積の縮小が顕著だ。8月は50

3万9000平方メートル（同8・9％減）で、4月以降では単月実績で最小。前年同月割れも4カ月連続となった。工法別では、動向がばらばらだが、動向が工法が前年同月を下回った一方、2×4工法は8320戸（同4・3％増）、木質プレハブは1087戸（同12・6％増）だった。特に2×4工法は3カ月に連続で前年同月を上回っている。8月の木造率は58・0％（前月比1・4ポイント調整済み）率換算値は77万7000戸（前月比0・5％増）。2カ月連続で増加となったが、依然として80万戸割れのペースとなっている。

プレカット向け中心に下落

国産針葉樹合板

国産針葉樹合板（12ミル厚3×6判、問屋着、枚）は9月下旬に首都圏で中心価格が下落し、10月に入りさらに20円安前後となった。新設住宅着工戸数が低迷するなか、荷動きを促すため一部の合板メーカーが下値を出すが、市中価格が下押し、9月上旬比で50円安前後となった。針葉樹構造用合板の8月の出荷量は2月に次ぐ低水準となったが、9月に入りプレカット工場の稼働がやや回復した。そのため同月以降は針葉樹合板の荷動きは改善傾向にある。ただ需給不均衡を背景に合板メーカーを中心に弱気で、荷動きはありながら地合いが固まり切らない状況が続く。販売店は当用買いを継続している。7月下旬以降の製販の値上げ唱えで市中価格は8月半ばで下げ止まったが、同下旬に荷動きが鈍化した。こうしたなか、値上げの意向があっても、現場では販売競争が激化しているという状況もある。プレカット工場間では受注競争が依然として激しく、プレカット工場がビルダーから求められる木材販価も下落傾向にあり、針葉樹合板ほか資材全般の値

安値傾向で厳しい販売環境

米協名古屋

米材協議会名古屋支部は先ごろ例会を開き、需給や市況の動向などを協議した。全体的に需要が低調で、輸入製品の販売が伸びない。特に、為替が円高に振れていることに加え、国内大手製材メーカーによる一部値下げの影響が広がり、売りづらいう状況に陥っている。「安値傾向により、在庫しているものが全く利益を生まない情勢」（問屋）との声が聞かれた。米材製品は、国内挽きの値下がりを受けて米松平角が一段安となり、米松KDタルキ、根太も荷もたれと国産材製品との競合で立方材当たり前月比3000円安の評定に。2×

4デイメンションランバーは、コスト高の材が入荷しているものの実需が伴わず、価格は弱含みで同2000円安となった。欧州材製品は、Wウッドのソリッド及び集成間柱は在庫量の増加が影響し、同2000円安の統落評定となった。国産材の杉間柱と桧土台も必要低迷により同2000円安となり、今月も弱含み傾向となっている。各問屋からは、為替円高による相場観の乱れや、北米の米ツガクリア材の生産量激減、展即イベンどでの製品販売の苦戦などが報告された。また、他地区の港頭在庫の増加が処分材とさらなる安値を生む可能性があることを危惧する意見が聞かれた。

下げ圧力につながっている。針葉樹合板の下げ相場が続くなか、プレカット工場は常に一段階下値を求めるとも強まっている。ただ、当用買いで流通在庫は低水準とみられる一方、9月以降は配送トラックを手配しにくい状況も散見される。当面は不足感のある商品の配送をはじめ、年末に向けた配送需要で即納への対応が厳しさを増すことも予想されている。

建築工事届を改正

国土交通省

国土交通省は、建築基準法施行規則及び建築動態統計調査規則の一部を改正する省令を10月1日に公布した。建築工事届の様式において、用途の分類を建築確認申請における用途区分と一致させるなど改正を実施した。主要用途欄について、使途区分の7区分から選択していたが、建築確認申請の用途区分と同じ分類に変更した。また様式において、建築物ごとの物件名を記入する欄を設けた。さらに工事施工者について、担当者の氏名と連絡先を記入する欄を設けた。新様式は、着工または除却の予定日が2025年1月1日以降である建築物については適用する。これら12月31日以前の建築物については旧様式を適用する。

三河市 2024 10月1日(火)～12月27日(金) 省工ネ・新工ネ 快適な暮らしを つなぐ未来へ お買い得商品 沢山ご用意 しております